

彙 報

第六回総会および研究集会

木簡学会第六回総会および研究集会は、一九八四年二月一日・二日の両日、奈良国立文化財研究所平城宮跡資料館講堂で開催された。両日とも約一〇〇人の出席のもと、興味深い報告と活発な質議討論が行われた。会場には、平城宮跡・平安京左京九条二坊十三町・小敷田遺跡・仙台城三ノ丸跡出土の各木簡、多賀城跡・払田柵跡出土木簡の写真、韓国新安沖海底遺物の報告書、最近の中国の簡牘研究文献などが展示され、参会者の大きな関心を呼んだ。

◇第六回総会（議長 亀田隆之氏）

二月一日（土）午後一時一五分開会。まず岸俊男会長が挨拶に立ち、木簡出土の正確な記録を遺漏なく後世に伝えるという本会の原点からみて、情報の収集になお問題があること、外国の木簡に関心を払うべきこと、会誌頒布方法の問題点、奈良国立文化財研究所への謝辞などを述べられた。次に亀田隆之氏を議長に選出した。

(1) 会務・編集報告（佐藤宗諄委員）

過去一年間の会活動と現状につき、以下の報告があり、了承された。(i) 会員数は現在一九一名（新入会員一九名、死去一名）。(ii) 委員会、一九八三年二月四日、八四年六月九日、一〇月二五日に開催

した。(i) 新入会員の承認は、今後原則として、六月・一〇月の委員会でやりたい。(ii) 幹事に綾村宏・館野和己両氏に加わっていただきたい。(iii) 八四年八月に、平城宮跡・多賀城跡・大宰府跡出土木簡の速報を会員に送付した。(iv) 八三年度木簡出土遺跡は三七カ所のうち、諸般の事情で会誌六号には、五遺跡の報告を掲載できなかった。次号収載にむけて努力する。(v) 韓国新安沖出土木簡の報告は、次号に掲載の予定。(vi) 会誌六号には一五号の総目次を載せた。今後五年をめどに掲載したい。(vii) 木簡出土情報になお遺漏があるようである。会員の御協力をお願いしたい。(viii) 会誌第七号への投稿をお願いする。

(2) 会計報告（岩本次郎委員）、会計監査報告（関晃監事）

一九八三年度（八三年四月一日～八四年三月三十一日）の会計について、収支決算報告と説明が行われた。次に、八四年六月一日に行われた会計監査にもとづき、会計の運営は適切であり、帳簿のあつかいも正確である旨報告された。以上の報告は、ともに承認された。

(3) 役員改選（原秀三郎氏）

会則第七条にもとづき、次期（八五年四月～八七年三月）の役員改選が行われ、別掲（七頁）のごとく、現役員の留任が提案され、承認された。なお次回改選期までに留任問題について検討することになった。

(4) その他 佐藤宗諄委員より、来年度総会および研究集会は、一九

八五年一二月七、八日に行う予定であること、第六号は頒価三五〇〇円、送料四〇〇円としたい旨の補足があり、ともに了承された。

◇研究集会

(1) 一二月一日(土) 午後二時三〇分～五時三〇分(議長 青木和夫氏)

公式様文書と文書木簡

最近の中国における漢簡研究

早川庄八
大庭 脩

早川報告は、主に正倉院文書中の多種多様な公式様文書の実例を整理し、これと文書木簡とを詳細に比較検討したものである。そして、両者に質的な差異のないことを明らかにし、口頭による行政から文書行政への展開を展望した雄大な報告であった。大庭報告は、同「中国簡牘研究の現状」(創刊号)、永田英正「中国における雲夢秦簡研究の現状」(第二号)、池田温「中国における簡牘研究の位相」(第三号)のあとをうけて、最近の中国における漢簡研究の現状と動向を詳細に伝え、日本木簡研究者に貴重な情報をもたらした。研究集会後、ギリル友案にて懇親会がもたれた。

(2) 一二月二日(日) 午前九時より(議長 狩野 久・田中 稔氏)

最近の各地出土の木簡

橋本義則

大宰府出土の木簡

倉住靖彦

一九八四年出土の平城宮木簡

寺崎保広

(コメント) 小敷田遺跡出土木簡(田中正夫)、多賀城跡出土木

簡(佐藤和彦)、弘田柵跡出土木簡(平川 南)、韓国新安沖

出土木簡(佐藤興治)

橋本報告は、一九八四年度出土木簡を中心に、近年の出土例の概要を示したものである。このうち平城宮出土木簡は、寺崎報告で詳しく検討され、小敷田遺跡・多賀城跡・弘田柵跡出土木簡のコメントがあった。倉住報告は、八三年出土の木簡(第六号)を詳しく検討したものである。韓国新安沖出土木簡のコメントは、近時出版された報告書を中心に行われ、海外の事例として注目をあつめた。

昼食後の休憩時間に、平城宮跡第一六一次(第二次朝堂院東第一堂)調査現場を綾村宏氏の説明によって見学した。午後の討論ののち、平野邦雄副会長の挨拶があり、三時三〇分に閉会した。

委員会報告

◇一九八四年一二月一日(土) 於奈良国立文化財研究所

総会に先だって、新入会員四名の承認、役員改選、会務・編集・会計報告、総会・研究集会の運営などについて検討した。

◇一九八五年六月二七日(木) 於奈良国立文化財研究所

役員の互選により、会長に岸俊男氏、副会長に平野邦雄・大庭脩氏を選出した。大会予定、会員の要件、会員サービス、会計中間報告、第七号の編集について検討し、新入会員四名を承認した。

◇一九八五年一〇月二九日(火) 於奈良国立文化財研究所

新入会員九名を承認した。会計・編集・会誌売れゆきの報告について検討した。今年度総会・研究集会の運営について検討した。